学校法人常翔学園は、2022年10月30日に創立100周年を迎えます。

100年、飛翔のキセキ

次代を見据え、時代に挑み続けたこの軌跡を、次の奇跡につなげて。100年先の大空へ、新たなる挑戦はすでに始まっています。

本学園は、設立者・校主 本庄京三郎、校長・工学博士 片岡安と12人の創設理事などが開校に向け尽力し、1922（大正11）年9月7日、時の大阪府知事 池松時和氏から設置認可を受け創設した関西工学専修学校がそもそもの始まりです。

時代と地域の要請に応え、中堅技術者育成を目的に開校した関西工学専修学校は着実にその役目を果たし、多数の卒業生が地域で活躍。それを受け技術者教育を看板としたさまざまな学校を併設する技術系総合学園として展開し、やがて高等教育をも担うまでに発展しました。現在では、大阪工業大学・大学院、摂南大学・大学院、広島国際大学・大学院、常翔学園中学校・高等学校、常翔啓光学園中学校・高等学校を設置する総合学園へと成長を遂げ、約2万5千人の学生・生徒が学んでおり、延べ約31万人の卒業生が社会の各分野で活躍しています。

2022年、学園は創立100周年を迎えます。永い歳月の中、常に「変わらない信念」を抱き続け、そして、時代の要請に応え「変わり続ける」ことで、常翔の名の如く飛翔100年という大きな節目を迎えます。

建学の精神

世のため、人のため、地域のため、理論に裏付けられた実践的技術をもち、現場で活躍できる専門職業人を育成する。

本庄 京三郎（ほんじょう きょうざぶろう）
設立者・校主
1868年岡山県生まれ。1891年東京法学院（現 中央大学）卒業。日本有数の高級住宅地として知られる西宮市甲陽園の開発をはじめ、多くの建築設計に携わるなど、新しい街づくりを進めた実業家でした。

片岡 安（かたおか やすし）
初代校長・理事長
1876年石川県生まれ。1897年東京帝国大学工科大学（現 東京大学）卒業。大阪市中央公会堂をはじめ、数多くの建築設計に関わる。日本建築協会、大阪工業会理事長、京都市立大学講師など多彩な都市計画のパイオニアでした。

人づくりという宝物に磨きをかけ、新たな100年へ

常翔学園の100年のあゆみを振り返ると、一貫して変わらないのが「世のため、人のため、地域のため」の建学の精神による人づくりです。大阪の近代化を担う技術者養成に始まった学園の教育は、今や建築、土木の分野だけでなく情報、医療・医薬、生命科学、経済・経営、知財、農業などあらゆる分野に活躍する人材を送り出しています。100年に及ぶ人づくりこそが学園の最大の宝物です。この宝物にさらに磨きをかけ、21世紀に世界が直面するさまざまな危機に立ち向かえる人材、新たな価値を創造できるスケールの大きな人材の育成がこれからの学園の使命です。新たな価値を創造するとは学園のパイオニア精神そのものです。次代のパイオニアとして常翔学園は、新たな100年先を見据えて歩み続けます。

学校法人常翔学園 理事長　西村 泰志（にしむら やすし）

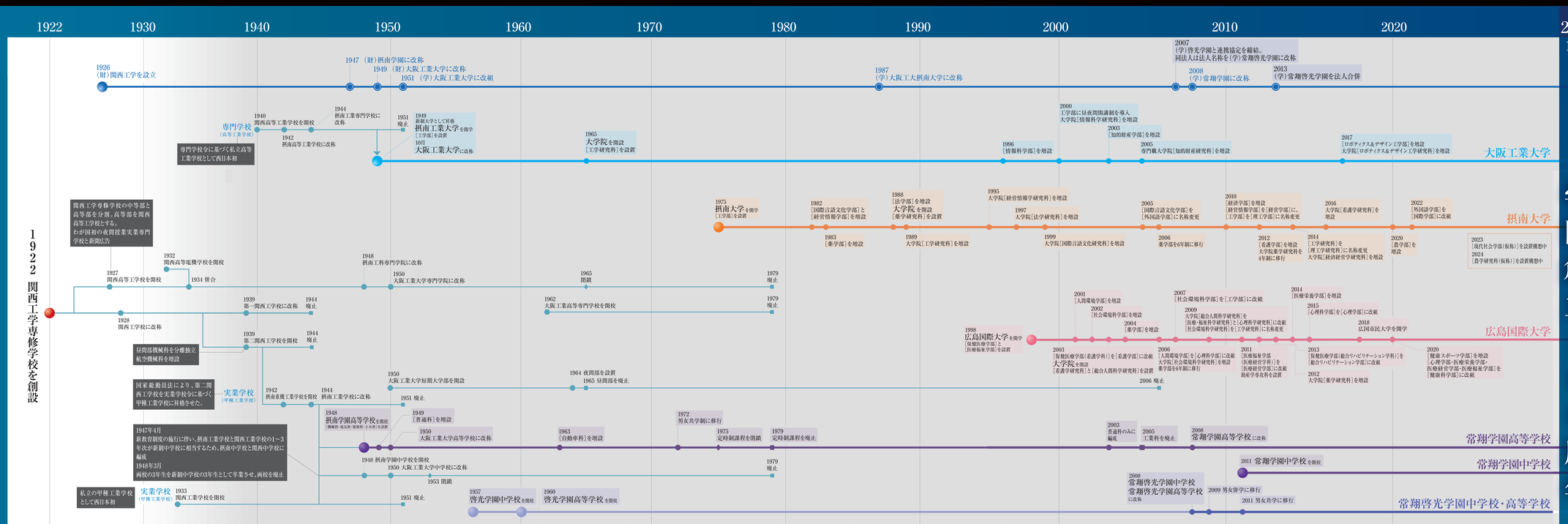
学園のあゆみ

Since1922

時代は技術者育成を急がせた。

学校創設の時代背景

大正期から昭和初期の大阪市は、これまで築いてきた商工業都市としての基盤に加え、市域の大幅な拡張もあって人口や経済規模において東京市を凌駕し、日本で最も繁栄する都市へと急速な発展を遂げました。

都市には産業の根幹を担う生産拠点ができ、人々が流入してきました。そのようななかで工場では、ものづくりの組織を指揮するとともに自らももものづくりを実践できる者が、また都市基盤整備事業においては、設計から現場での監督までもこなせる者が求められていました。しかし、産業界の急速な近代化に対応できる技術者の数が不足し、即戦力となる技術者の養成が急がれました。

当時、わが国の工業教育に対する認識は浅く、特に商業中心の大阪での工業教育機関は微々たるものに過ぎませんでした。このような時代に、将来、工業技術者の必要な時代が必ず到来することを察知し、私立学校の経営では最も難しいといわれる工業教育に、あえて踏み切った関係者のパイオニア精神は注目に値します。